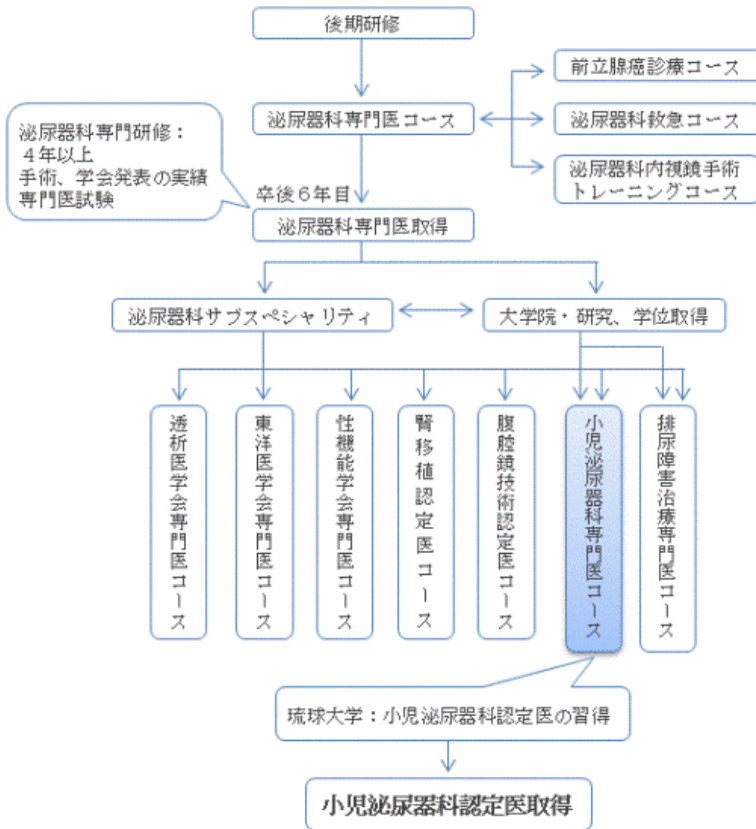


■ 小児泌尿器科認定医コース

<コースの全体像>

小児泌尿器科はその患者数のうち7割が膀胱尿管逆流症（VUR）などの先天性疾患であるという特徴をもつ。近年胎児の超音波検査の普及により、新生児・乳児期から小児泌尿器科医がかかわる尿路系疾患が以前より多くなった。加えて長期間の経過観察が必要な疾患が多い。また疾患が自然に消失するという特徴もある。例えばVURは症例全体の1/3～1/2は最終的に自然消失するが、その半面逆流を治しても、腎障害が進行して思春期後に腎不全に陥ることも稀ではない。このように成人泌尿器科とは異なった観点からの治療が必要であるが、その経過中にも成人に対しては一般的な検査法・治療法が、小児では侵襲的なために制約されることがある。成人泌尿器科とはかなり傾向を異にする各種小児泌尿器科疾患に対する、適切な診療、検査等を含む診断法、治療（手術）方法を一通り習得させることを目的として医師養成を行う。



<コースの概要>

| 大病院・医療機関名 | 診療科名 | 専門分野名 | 指導者数 | 目的 | 養成(受入)人数 | 期間 |
|-------------|------|--------|------|-----------|----------|----|
| 琉球大学医学部附属病院 | 泌尿器科 | 小児泌尿器科 | 1名 | 小児泌尿器科の習得 | 1名 | 2年 |
| | | | | 受入人数 | 1名 | |

<コースの実績>

本コースで修練を行った医師は、現在沖縄県内における小児泌尿器科の大部分を担っているのみならず、後輩の指導・学会活動にも大いに貢献している。また、来年以降は、県外の提携関連病院または大病院でも小児泌尿器科のトレーニングができるようになる予定である。

<コースの指導状況>

県内の大部分の症例を担っており、指導医は学会の中心的存在である。外来診察、検査、手術、術後のフォローと系統立てた指導を行っている。また、学会にも積極的に参加させ、コース終了までに小児特有の疾患または考え方が習得できるようなプログラムになっている。

<専門医の習得等>

| | |
|-----------|--|
| 学会等名 | 日本小児泌尿器科学会 |
| 資格名 | 小児泌尿器科認定医 |
| 資格要件 | 日本泌尿器科学会会員であること、5年以上日本小児泌尿器科学会会員であること。実績 |
| 学会の連携等の概要 | 日本泌尿器科学会より臨床研修施設に認定されている。 |

